

報道関係者各位

2026年8月

「また来たい」と思える場所をつくる介護

施設長インタビュー ショートステイラポート 白井施設長

～家庭的なぬくもりと最新設備で、利用者もスタッフも「安心」できる場所へ～



ショートステイラポートは、広島市南区仁保を拠点に高齢者の短期入所サービスを提供しています。「ほっとかしにされる」という声が多い介護業界において、当施設が大切にしているのは、利用者さん一人ひとりの生活リズムに寄り添う「家庭的な介護」です。今回の記事では施設長への取材をもとに、施設のこだわりと現場の実態をご紹介します。

1. ショートステイラポートのこだわり

他施設との最大の違いは、利用者さん一人ひとりとじっくり向き合える「家庭的な雰囲気」です。個々の方に合わせた生活リズムを大切にしながら、穏やかに過ごしていただける環境を整えています。

- 【家庭的な雰囲気】スタッフが利用者さん一人ひとりと丁寧に向き合える規模感を保っています。「気づいてもらえる」安心感が、当施設の大きな特徴です。
- 【生活リズムの重視】一日のスケジュールをしっかり組み、利用者さんが見通しを持って穏やかに過ごせるよう配慮しています。
- 【個別のコミュニケーション】初めてご利用いただく方には必ず定期的に声かけを行い、これまでの生活歴を踏まえたコミュニケーションを心がけています。施設に慣れるまでの不安を、丁寧な関わりで和らげていきます。

2. 日々の生活リズムと「機能維持」へのアプローチ

当施設が1日のスケジュールで特に力を入れているのが「朝の体操」と「トイレ誘導」です。どちらも機能低下を防ぐための、欠かせない日課となっています。

- 【朝の体操】座ったまましていると心身の機能低下につながります。毎朝の体操を日課として取り入れ、体を動かす習慣づくりを支援しています。
- 【トイレ誘導(生活のリハビリ)】トイレ誘導は単なる介助ではなく「生活のリハビリ」として位置づけています。しっかりと歩いていただくことで、身体機能の維持・向上を日常の中でサポートしています。

こうした毎日の積み重ねが、利用者さんの生活の質(QOL)を着実に支えています。

3. テクノロジーが変えた介護の現場

かつての夜間巡回は、数時間おきに一部屋ずつドアをそっと開け、ご様子はどうか？確認して回るものでした。現在は見守りシステム(眠りスキャン)の導入により、夜間のご様子が把握できるようになり、スタッフの身体的・精神的な負担が大幅に軽減されています。

- 【見守りシステム】夜間の安否確認が見守りシステムで完結。万が一の際も映像記録によりご家族への説明が迅速に行えるため、安全管理の質が格段に向上しています。
- 【インカムの利用】以前は入浴介助中のスタッフが大声で他のスタッフに手伝いを求めることも多かったですがインカムを使用してスタッフ間の連携が取りやすくなりました。
- 【ベッド・設備の刷新】ベッドをはじめとした設備を大幅にアップグレードし、利用者さんの快適性と安全性を高めています。担当者会議でも「そんな設備があるのか？」と驚かれるほど、先進的な環境を整えています。
- 【腰痛予防機器の積極導入】スタッフの腰痛予防に向けた機器のデモ・試用を随時実施し、体に優しい職場環境づくりを前向きに進めています。
- 【有給休暇の取得推進】介護業界の中でも先進的な取り組みとして、有給休暇の取得を積極的に推進しています。

4. スタッフが「働きたい」と思える職場づくり

介護業界の課題として離職率の高さが挙げられますが、ショートステイ ラポートでは「居心地の良さ」だけにとどまらない、実質的な働きやすさの実現に取り組んでいます。

- 【一人ひとりの個性を尊重】スタッフそれぞれの強みや個性を活かした関わり方を大切にしています。シフト上の課題など、現場で起きる人間関係の問題にも、管理者が適切な距離感で介入しながら対応しています。
- 【明確な役割分担】白井施設長が全体を俯瞰しながら、主任に現場を委ねる体制が機能しています。管理者の役割が明確なことで、現場スタッフが迷わず動ける環境が整っています。
- 【透明性の高い経営】決算内容を管理者会議で社長が全ての項目を直接説明しオープンにする方針は、同業他社ではほとんど見られません。経営の透明性が、職員の信頼感とやりがいに直結しています。
- 【上を目指せる環境】管理者クラスの意識・スキルが高く、若いスタッフにとって大きな刺激と学びの場になって

います。火曜日の管理者会議や定期的な研修など、全員で会社を一緒に上げていく文化が根付いています。

- 【職員さんを守る補償】工作中的の怪我だけでなく、プライベート中の怪我や病気・がん補償まで会社が職員を守る仕組みがあります。



5. 未経験者・経験の浅いスタッフへの手厚いサポート

「うちのやり方をしっかり習得してもらいたい」という考えのもと、新入スタッフには最低3か月以上の個別指導体制を設けています。マニュアルを渡して終わりではなく対話を通じた育成を徹底しています。

- 【3か月の個別指導】専任の指導者がつき、その人のペースと習熟度に合わせて丁寧に指導します。「自信がない」「一人では難しい」という場面でも、焦らずに寄り添います。
- 【指導記録による双方向コミュニケーション】「今日はどういうことをした」「次はここを意識しよう」という具体的なやりとりを記録に残し、指導者とスタッフが共有します。一方的な教育ではなく、対話型の成長をサポートする仕組みです。

6. 利用者さんにご家族からいただいた言葉

当施設を長くご利用いただく中で、利用者さんやご家族からさまざまな言葉をいただけてきました。そのひとつひとつが、スタッフ全員の大切な原動力になっています。

特養の順番を断って、「ここがいい」と選び続けてくださる方がいます

特別養護老人ホームへの入所順番が来たにもかかわらず、「ここがいいから」とショートステイ ララポートを選び続けてくださる利用者さんがいます。特養には医師が常駐し、最期まで入居できる環境があります。それでも「ここにいたい」と言っていただけことは、施設全体にとってこのうえない評価です。

「最後まで幸せでいられた」とご家族から感謝の言葉をいただきました

最初のご利用を渋っていた利用者さんも、スタッフとの関わりを重ねるなかで施設に馴染んでいられました。その方が亡くなられた後、ご家族から「家族のように接してくれたおかげで、最後まで幸せでいられました」とお手紙をいただきました。「安心して任せられる」という信頼の積み重ねが、ここにあります。

7. 他の施設でうまくいかなかった方も、ここで馴染んでいます

利用者さんと施設の「合う・合わない」は、確かに存在します。当施設には、他の施設では難しいと言われた方が、ショートステイ ララポートではすっかり馴染んでご利用を続けてくださっているケースが複数あります。家庭的な雰囲気と一人ひとりへの個別対応が、特にそうした方々の受け皿になっています。「まずは一度来ていただき、実際の雰囲気を感じてほしい」という思いで、ご見学・ご相談をいつでもお受けしています。

8. 今後のビジョン——全員がカバーし合えるチームへ

目指すのは、リハビリ担当・看護師・介護スタッフの垣根を超え、全員がカバーし合えるチーム体制です。専門性を持ちながら互いの仕事を補い合える職場は、スタッフの安心感にも、利用者さんへのサービス品質にも直結します。

個人個人の成長がチーム全体の底上げにつながる——そのサイクルをつくっていくことが、これからの課題であり、最も大切な取り組みです。

9. 就職・転職をお考えの方へ

介護業界は「離職率が高い」「給料が安い」というイメージが先行しがちですが、ショートステイララポートが属するMINORI Groupでは、職員一人ひとりの働きやすさと成長を真剣に考えた環境整備を進めています。

- 【「取り残さない」を実践する職場】 パソコンが苦手なスタッフへの丁寧な研修から管理職候補の育成まで、個人の状況に合わせた教育体制が整っています。
- 【成長できる職場環境】 上を目指す人にとって、管理者クラスのレベルの高さと会社全体の向上志向は大きなモチベーションになります。介護の枠を超えた自分の可能性を感じられる職場です。

ご利用をご検討の方へ

初めてのご利用でも、安心してお越しください。新しい環境への不安を和らげる声かけや個別の配慮を大切にしており、他の施設でうまく馴染めなかった方も、ここで落ち着いてご利用いただいているケースが多くあります。まずは一度、実際の雰囲気を感じていただければ幸いです。ご相談・ご見学はいつでもお受けしています。

ショートステイラポート

〒734-0026 広島県広島市南区仁保3丁目42-6

電話番号: 082-546-9266

MINORI Group Holdings株式会社 について

MINORI Group Holdings株式会社は、広島市安佐南区八木を拠点に、福祉事業・不動産事業・農園事業を展開する地域密着型のグループ企業です。「実りある未来を共につくる」を合言葉に、地域の課題解決と人の成長を促すための仕組みづくりを行っています。

社名	MINORI Group Holdings株式会社
代表者	代表取締役 駕屋貴治
本社所在地	広島市安佐南区八木7丁目6-9

設立	2025年5月
資本金	100万円
従業員数	150名(グループ全体)
事業内容	児童福祉、高齢介護、不動産、工務店、ボクシングジムなど
HP	https://www.minoriholdings.jp/

【報道・掲載に関するお問い合わせ先】

広報担当: 山下 浩治 E-mail: yotsuba.k.yamashita@gmail.com